

令和2年度 連携研究スキームによる研究（政策研連携研究課題）
研究成果等概要報告書

研究テーマ名	ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「国産農水産物の国内外の需要動向を踏まえた供給体制に関する研究」
政策研連携研究課題名	中長期的な国産農水産物の国内外の需要動向を踏まえた輸出のあり方に関する研究
研究実施期間（西暦）	2020年度～2022年度（3年間）
P0	上席主任研究官 高橋 祐一郎

1 研究の進捗状況等

本研究は、ポスト新型コロナウイルス禍における中長期的な国産農水産物の国内外の需要動向を踏まえた輸出のあり方について提言することを目的としている。2020年度は、次の3つの項目について研究を実施した。また、東京海洋大学を中核機関とする研究グループと連携し、研究会及び共同調査を実施した。

① 主要品目の輸出動向等に関する研究

主要な水産物の輸出品目の生産動向及び輸出動向に関する情報を収集した。殆どの品目で輸出額は前年を下回り、新型コロナウイルス禍の影響による国内生産体制の悪化や世界的な外食の落ち込み等がうかがえた。

② 水産物のフードチェーン・アプローチに関する研究

適切なフードチェーン・アプローチの構築に必要と考えられる、我が国水産物のエコラベル、認証制度、漁港や加工施設における衛生管理の実態について情報収集を行った。また、他国におけるフードチェーン・アプローチ導入の状況を把握するため、インドネシアのエビ養殖におけるGAP制度に関して情報収集を行った。

③ 適切な水産バリューチェーンの構築に関する研究

漁業における生産性についての的確に把握するため、様々な環境において適用される生産性の概念について情報収集を行った。また、近年適用が広がっている水産物の産地市場における電子商取引の今後の発展の可能性について、情報収集を行った。

成果の発表

発表者	表題	発表誌、巻号	発表年月
天野通子・山尾政博	養殖ブリ産地のグローバル化への対応—EU-HACCP の仕組みと公的認証の役割に注目して—	『農業市場学会個別報告』	2020 年 7 月
山尾政博	インドネシアの水産加工業の動向:対日輸出を中心に	『日本アセアンセンター・インドネシア商務省・インドネシア大使館主催シンポジウム』	2021 年 1 月
山尾政博・天野通子	広島カキ養殖産地を支える循環型フードチェーン	『地域漁業学会研究集会』	2021 年 2 月
高橋祐一郎・天野通子	近年の水産物輸出動向及び輸出拡大に伴う国内産地への影響—ホタテガイと養殖ブリの事例—	『農林水産政策研究所レビュー』No.97	2020 年 9 月
天野通子	養殖水産物の輸出におけるフードチェーン・アプローチ	『農林水産政策研究所レビュー』No.98	2020 年 11 月